


 **適期播種で収量確保に努めましょう！**


 **県技術情報を参考に病害虫の適期防除を行いましょう！**

1. 今後の天気について

関東甲信地方1か月予報(令和3年6月10日気象庁発表)では、降水量は平年並・平年より多くなる確率がそれぞれ40%・30%です。平年と同様に雨の日が多くなる予報のため、ほ場の状態をよく見て適期内の播種に努めましょう。

2. 大豆の播種について

- 栃木県の大豆播種適期は「6/15~7/5」です。
- 推奨播種量は「4.5~6 kg/10a」ですが、連続的な降雨で播種が遅れそうな場合はさらに1~2割播種量を増やしましょう(特に麦跡は遅れないよう注意！)。
- フタスジヒメハムシやコガネムシ類の幼虫による被害を防除するため、登録薬剤を用いて種子消毒あるいは播種前の土壌混和处理を行いましょ。

※詳細は「栃木県農作物等病害虫雑草防除指針(電子システム版)」を参照 




適期より早く播種すると・・・

- ① 主茎が伸びて倒伏しやすくなる
- ② 過繁茂になり病虫害の発生が多くなる
- ③ 分枝数・莢数が多くなり過ぎるため、株内の熟ムラが多くなる。

適期より遅く播種すると・・・

- ① 生育量が不足し減収する
- ② 早霜で成熟に至らない場合がある

3. 大豆の病害虫防除について

- 県の技術情報を参考にして、病害虫の適期防除を実施しましょう。 



塩谷南那須農業
振興事務所HP




農業環境指導
センターHP

- 表1のとおり、時期別に発生する病害虫を把握し、ほ場をよく観察して適宜農薬散布等で防除を行いましょ。

表1 大豆の生育段階、時期別における主な発生病害虫

開花後日数	時期	生育ステージ	注意すべき病害虫
(開花10日前)	7月下旬	開花前	べと病
15日後	8月中旬	莢伸長期	紫斑病、べと病、カメムシ類、フタスジヒメハムシ、ハスモンヨトウ、サヤタババエ等
25日後	8月下旬	子実肥大初期	紫斑病、べと病、カメムシ類、フタスジヒメハムシ、マメシクイガ、ハスモンヨトウ等
40日後	9月上旬	子実肥大中期	カメムシ類、フタスジヒメハムシ、マメシクイガ、ハスモンヨトウ等
50日後	9月中旬	子実肥大後期	カメムシ類、フタスジヒメハムシ、マメシクイガ



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

身支度も
万全にし
てまる！

- ①農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ②農薬の飛散防止を徹底する
- ③農薬の使用状況を正確に記帳する

4. 最新技術の活用について

農林水産省では、スマートフォン等で大豆栽培の問題点を改善するための支援マニュアル「スマホで簡単！大豆診断 楽々ナビゲーション♪」を公開しています。

18項目のアンケートに回答することで、6項目のリスクに対する診断結果を提示してくれます。誰でも無料で利用できるもので、一度自分の大豆栽培について振り返り、大豆栽培改善に努めましょう。下記のURLもしくはQRコードをチェック！



https://www.naro.affrc.go.jp/org/narc/crop_diagnosis/index.html

